

5号機 燃料装荷作業中における原子炉内への異物落下について

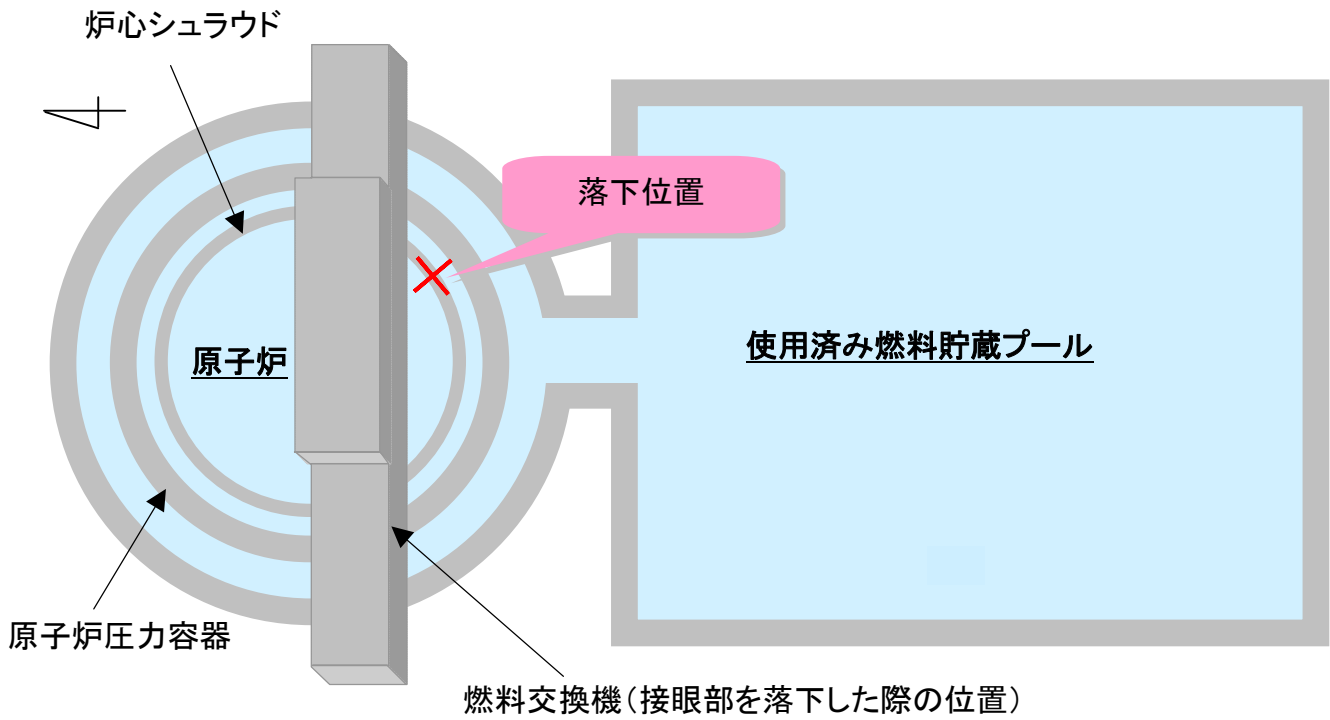
平成20年10月6日

発生号機	5号機（定期検査中） :改良型沸騰水型、定格電気出力126.7万キロワット
発生年月日	平成20年10月5日
発生時の状況	午前3時45分頃、燃料装荷作業中に、燃料交換機上で燃料の移動状況の監視に使用していた双眼鏡から接眼部の部品（大きさ直径約2cm）が外れ、原子炉内へ落下しました。 その後、当該部品は炉心シュラウド(※)の上部フランジ部で発見され、同日午前9時20分に回収しました。
放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありません。
原因	当該部には、外れ防止機構がないため、双眼鏡の焦点を調整している際に一緒に回転してしまい、本体から外れ落下したものです。
対策	今後は、接眼部が外れないように処置した双眼鏡を使用します。
お知らせ基準	「表2-8 原子炉又は使用済燃料貯蔵プールで異物を発見したとき又は混入したとき、圧力抑制室等に異物を発見したとき」に該当します。

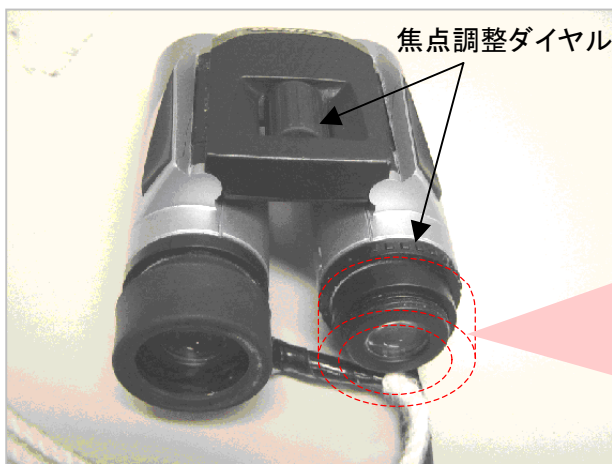
※ 炉心シュラウドは、原子炉圧力容器内に燃料集合体(炉心)を囲むように設置されている円筒状のステンレス製構造物であり、原子炉内の冷却水の流れを分離する仕切り板の役割をするものです。

以上

◆ 双眼鏡の接眼部が落下した位置



◆ 双眼鏡と回収した双眼鏡の接眼部



双眼鏡



回収した双眼鏡の接眼部

〔 大きさ: 直径約2cm
材質: プラスチック、ゴム 〕